

店品 技人

ファイル43 取材日 H22.12.20



株イシワリ 石割金物
 横手市神明町1-21
 TEL:32-1917 FAX:32-1655
 【創業】昭和23年 【従業員】8名
 【営業時間】7:30~18:30
 【定休日】日曜日
 【専業内容】工具、金物、建築資材

プロフィール
 石割 龍悦
 後援代表取締役
 昭和29年11月2日生まれ
 出身地:横手市
 特技:料理
 趣味:読書

横手市に昔からある金物屋さん。今回は、「石割金物」さんで親しまれている株イシワリ 代表取締役 石割龍悦さんにお話しを伺いました。社長さんの趣味はなんと…。

お邪魔します。
 通された部屋には多くの骨董品や美術書が…。
 石割金物さんというところからあるイメージですが、創業はいつですか？

昭和23年です。創業62年目ですね。今の店を開く前は、江戸時代から続く鍛冶屋だったんです。その代から数えると私で10代目です。

そうだったんですか。そうですね。店内にはたくさんさんの包丁がありましたよね。

うちの包丁は、飲食業の方が良く買いにいらっやいますよ。

ところで、この部屋にある骨董品が気になっていたりしますが、ご趣味なんですか？

趣味というか、趣味以上のものですね(笑)。高校時

代から続けています。もともと歴史が好きで、浮世絵や尾形光琳などの江戸時代の美術が好きでした。なので、大学でも美術を学びたい気持ちがありました。

大学ではどんな勉強をされたんですか？
 主に美術史ですね。特に絵画史。ですから国立博物館などの先生が大学に教えに来ていました。卒業論文も浮世絵師について書いたんです。

卒業後、美術系の職に就かずには元に戻ってこられたんですね。



長男ですから、致し方ないですね(笑)。でも、地元に戻る前、北大路魯山人の弟子が開いた骨董品店で働いたこともあるんですよ。

そうなんですが行ってみたいと思うスタッフ(社長さん)がお持ちの骨董品は、どこで買ったんですか？

日本の各地です。でも、良くてめずらしいものは一千点に一個くらいしか出てこないですね。

すごい確率ですね(驚)ほとんどが平凡なものか、偽物ですよ(笑)

でも偽物かどうかは、当然ばつと見では分からないですよ(驚)

もちろんそうです。今はかなり精巧な模造品が出回っていて、専門家さえ本物が偽物かを見分けるのに苦労するほどです。だから、天体観測で新しい星を見つ

だけを集めている収集家もいるんですよ。

骨董というと、触るときは白い手袋をするイメージがあるのですが。

それは掛け軸や絵画の場合で、焼き物は手袋だと滑るので、素手が原則です。なおかつ必ず両手で持って、高く上げてはいけませんよ。

そういえばテレビ番組などでも焼き物は素手で持っていましたね。それにしても、まったく同じものに見えるんですけど…。

そうですね(笑)でも釉薬(つわくすり)の感じや微妙な色の違いはあります。



▲天目茶碗

けるような感覚でいつも探すんです。
 社長さんは主にどんなものを集めているんですか？
 主に中国の陶磁器です。
 例えばこれは、宋時代の天目茶碗といわれる黒い茶碗です。この黒い茶碗



▲実際に触ってみました



▲中国の鉄の兜

やはり、素人にはとても分からないですね(笑)

これは、日本が平安時代だったころの中国の鉄の兜です。普通鉄は錆びてボロボロになるのですが、この兜は保存状態が良かったです。

中国の骨董を集めているということですが、中国へは頻繁に行かれるんですか？

もう何回も行ったことがあります。でも北京の博物館が目的地なので、観光はしたことが無いんですよ(笑)

えー？そんなんですか。なんだかもったいないような気が。

中国での一番の収穫はどんなことですか？

そうですね。私が所持するものを北京の「中国国家博物館(旧中国国史博物館)」の研究員に鑑定してもらったところ、世界的に珍しいものであるということが判明し、共同通信社の取材を受けたことがあります。

それはすごいですね(驚)それはどれですか？(キョロキョロするスタッフ) 残念ながらここには置いていないんですよ(笑)厳重に保管しています。

なるほど。ところで、骨董の分野は、精密に分析・解析できる装置の開発や研究が進み、頻りに新発見があると思うのですが、やはり勉強されているんですか？

そうですね。今でも一日二・三時間くらいは勉強しています。好きなことなので、何時間でも続けられます(笑)

骨董に並々ならぬ情熱を注いでいらっしやる社長さん。世紀の大発見を目指してこれからも頑張ってください！

あなたの事業、応援します！